

担当教員授業題目	生態学野外実習 (茨城大学)				担当教員	山村靖夫・堀良通・遠藤泰彦	
英文授業名	Field Study of Plant Ecology				副担当教員		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	集中・9月	対象学年	3
授業形態	実習	備考					
<p>(1)授業のねらい (到達目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 植物相と種多様性を理解し、身近な植物・植生への興味を深める。 二次林の基本構造、草本群落の生産構造を理解し、データを示して概要を説明できる。 植物の採集と観察・標本作製・同定の方法を習得する。 植物生態学における基礎的な野外調査方法を習得する。 <p>(2)授業の概要</p> <p>茨城大学大子合宿研修所周辺の落葉広葉樹二次林とその周辺の草地において植物の観察・採集と植生調査を行い、標本作製と種の同定、植物相や群落の種多様性・生物量・空間構造・遷移過程などを解析する。また、森林内外の温度、湿度、光強度などの環境測定を行い、植物の生活様式、群落構造との関係を考察する。それぞれの実習項目ごとに、調査結果のプレゼンテーションを行う。9月下旬に5泊6日の日程で実施する。</p> <p>(3)授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 森林や草地の植物を採集し、標本作製と種の同定を行う。 個体内・種内・種間における植物体各部の形態変異の実態を把握し、変異の原因を考察する。 森林での調査面積と植物の種類数の関係、森林の空間構造を調べる。 				<p>(授業計画の続き)</p> <ol style="list-style-type: none"> 成立後の年数が異なる二次林において、毎木調査をおこない種類数、バイオマス、種の多様度などの経年変化を調べる。 層別刈り取り法により草本群落の生産構造を調べる。 裸地、林縁、林内の地上と地中に温度計を設置し、気温、相対湿度、地中温度の終日観測を行い、各場所の環境の違いを調べる。 上記の実習項目ごとに、パワーポイント等を用いて調査結果を発表する。 <p>(4)成績評価の方法</p> <p>レポートおよび実習の取り組み状況により評価する。</p> <p>(5)履修上の注意</p> <p>植物系統分類学、生態学を含む基礎的な専門科目を履修済みのことが望ましい。履修希望者は年度始めに、担当者（下記連絡先）に問い合わせて日程等を確認し、所属する大学で手続きをしてください。</p> <p>(6)質問,相談への対応</p> <p>授業時間以外の事前・事後の質問・相談は電子メールで受け付ける。 連絡先アドレス ; yama@mx.ibaraki.ac.jp (山村靖夫)</p>			
<p>【教科書】 使用しない。資料配付。【参考書】 各種植物図鑑,日本の植生(学研),植物生態学講座(朝倉書店),森林立地調査法(博友社)。</p>							